



補聴器とコミュニケーション

生まれつき耳の聴こえにくい子どもさんは世界中どこでも、1000人に1人の割合で生まれてきますが、後から音が聞こえない、または聞こえづらくなった聴覚障がい者や加齢性難聴を含めると、現在およそ20人に1人の割合で存在しています。また、WHOによると、高齢者人口の増加等で、2050年までに世界で4人に1人が聴覚障がいを抱えて生活するだろうといわれています。

加齢性難聴は誰でも起こる可能性があります。一般的に、50歳頃から始まり、65歳を超えると急に増加するといわれています。その頻度は、60歳代前半では5~10人に1人、60歳代後半では3人に1人、75歳以上になると7割以上との報告もあります。また加齢性難聴は数年以上かけてゆっくりと進行するため、自分では気づかずに、家族や友人に指摘されて気づくということもよくあります。

聞こえないまま長期間を過ごしていると、脳への聴覚刺激が少なくなり、「難聴脳」の状態に変化し、聞き取る力が低下してくる可能性があります。そのため、補聴器を装用し、聴覚トレーニングを行うことで、脳の聴覚機能が改善し、会話を聞き取る力が回復することが報告されています。

脳の聴覚処理機能や認知機能の低下を予防する観点から、以下のような症状がある方は加齢性難聴の可能性が考えられます。そのため、早めの耳鼻科医への受診と補聴器の装用をお勧めします。

- ・音は聞こえているが、会話が理解できない
- ・騒音の中、複数の会話が飛び交う中でのことばの理解ができない
- ・早口でしゃべられると理解できない

耳鳴りの改善にも補聴器が有効です!!

1.補聴器とは??



補聴器とは、内蔵されているマイクロホンが拾った音を大きくして出力することで聴覚障がいの方の聴力を補う医療機器です。

現在では内蔵されているプロセッサが拾った音を分析し、雑音の軽減や周波数ごとに音声の増幅などを細かく行うことで、より会話を聞き取りやすくする仕組みの「デジタル補聴器」が主流となっています。

2.補聴器の種類



耳あな型オーダーメイド補聴器

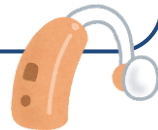
一人ひとりの耳の形、聴力に合わせて作るオーダーメイドの補聴器。自分の耳にぴったり収まるので外れにくく、マスクやメガネ、帽子の邪魔にもなりません。軽度~中等度難聴に対応しています。





耳かけ型補聴器

耳の後ろにかけて使うタイプの補聴器。小型タイプから重度難聴向けのハイパワータイプまであります。種類が多く、価格も幅広く揃っています。カラーバリエーションも豊富です。操作も簡単です。



3.補聴器のカラーバリエーション

補聴器も現在はカラーバリエーションが増え、ポップでカラフルなおしゃれな色の補聴器やイヤモールドもたくさんあります。アートカバーをつけ、「魅せるもの」として装用される方も増えています。



4.人工内耳

人工内耳とは、耳の奥にある内耳(蝸牛)に細い電極を挿入し、超神経を直接刺激して聴力を改善する人工臓器の一つ。手術で耳の奥に機械を埋め込み、頭部にマイクを取り付けて音を聞きます。

人工内耳は補聴器の効果がほとんど認められない90dB以上の感音性難聴等の条件を満たした方が対象です。音入れと聴こえのトレーニングが必要です。加齢性難聴の方の装用者も増えてきています。



**補聴器の装用は、耳鼻科医への受診と
認定補聴器技能者のいる販売店への相談を行いましょう!!**

(今月のニュース担当より)

言語聴覚士の十河です。

今年も私の大好きな文旦の季節になりました♪

昨冬は、152個の文旦を食べました!!

今年は去年以上に大好きな文旦を食べたいと思います!!

来月号の担当は、看護師の織田さんです。皆さま、お楽しみに!



リハビリ訪問看護 きらっとテラス

TEL : 087-814-6830 FAX : 087-814-6831

営業時間 : 平日・祝日 8:30~17:30 (休日 : 土日・年末年始 12/30~1/3)

看護師 : 6名
理学療法士 : 2名
作業療法士 : 1名
言語聴覚士 : 3名
(2024年2月現在)